

◇編集後記◇

産業衛生雑誌・JOH 編集委員会は平成 26 年より新体制として、フィールド制が取り入れられ、投稿者がフィールドを選択し、査読効率を質・量ともに高める方式となったことは、編集委員会委員長の堤先生より、本誌 5 月号に掲載されております。私は“産業保健活動 / 産業保健職”のフィールドを担当させていただいております。編集委員は今年 4 月から 2 期目に入りますが、1 期目とは異なる方式に試行錯誤しながら作業に取り組んでおります。

編集委員をしている立場からしますと、雑誌の評価、質は気になる一面がございます。

既にご存知の方々も多いかもしれませんが、2013 年の Journal Impact Factor (IF) がこの 6 月に公表され、JOH (Journal of Occupational Health) の IF は 1.096、5 年間の IF は 1.792 でした。計算の根拠も提示され、2013 年の IF は、2011 年と 2012 年に印刷された論文数を分母、2013 年に同 2 年間に引用された論文数を分子として計算されております。引用・掲載される論文数が多い程、IF は高くなる仕組みとなっております。そして IF はジャーナルの名声と影響度の評価指標として世界中の研究者は認識し、利活用していることも知られております。編集委員として IF に一喜一憂する前に IF のことを正しく知っておくことも必要かと思ひ、インター

ネットのホームページ (Editage Insights) で IF について調べてみました。IF を使用する際の留意事項も書かれており、1. IF の絶対値だけを見ても意味がない；広い学問分野と狭い学問分野ではその評価は異なり、専門分野に特化したジャーナルは IF の値が低い傾向にあること、2. 学問領域ごとに傾向が異なる；IF は学問領域をまたいでジャーナルを比較することは得策ではない、3. IF は特定の分野では重要視されない；コンピュータサイエンスの分野では学会議事録が重要な形態とみなされる、4. IF のないジャーナルに価値がないわけではない；トムソン・ロイター社は自社の引用データベースを元に IF を算出している。そのデータベースは実際に出版されていると思われる約 30,000 件の査読付きジャーナルのうち、約半分を索引しており、データベースのカバーする範囲は不均等でもある、などでした。

また、IF は操作することもできると記されており、分子であるジャーナルの引用を高くするための方法も記載されておりますが、ここまでくると意図的・操作的で本末転倒の感が致します。

編集委員としては雑誌を利活用する会員のために質の高い雑誌・論文となるよう日々努力したいと思っております。

(西田和子)

「産業衛生学雑誌」編集委員会

委員長：堤 明純 (北里大)

副委員長：柴田英治 (愛知医大)

編集委員：市原 学 (東京理科大)、梅津美香 (岐阜県立看護大)、榎原 毅 (名古屋市立大)、大神 明 (産業医大)、影山隆之 (大分看護大)、小島原典子 (東京女子医大)、挂本知里 (東京有明医療大)、上島通浩 (名古屋市立大)、萱場一則 (埼玉大)、車谷典男 (奈良医大)、近藤尚己 (東京大)、榊原久孝 (名古屋大)、佐々木美奈子 (東京医療保健大)、島津明人 (東京大)、須賀万智 (東京慈恵医大)、杉森裕樹 (大東文化大)、諏訪園靖 (千葉大)、高橋 謙 (産業医大)、高尾総司 (岡山大)、田中 茂 (十文字学園女子大)、玉腰暁子 (北海道大)、中田光紀 (産業医大)、中村裕之 (金沢大)、錦戸典子 (東海大)、西田和子 (久留米大)、野見山哲生 (信州大)、原田浩二 (京都大)、平工雄介 (三重大)、廣 尚典 (産業医大)、藤野善久 (産業医大)、堀口兵剛 (北里大)、三宅達郎 (京都市保健福祉局)、毛利一平 (ひらの亀戸ひまわり診療所)、森岡郁晴 (和歌山医大)、森河裕子 (金沢医大)、森田 学 (岡山大)、大和 浩 (産業医大)

客員編集委員：田中紀子 (国立国際医療研究センター)、東 尚弘 (東京大)、八幡勝也 (産業医大)

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1 丁目 29 番地 8 公衆衛生ビル 4 階

電話 03-3356-1536 ファックス 03-5362-3746 振替 東京 00100-7-133495 番